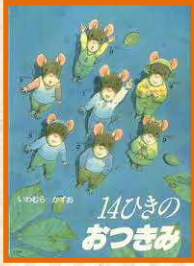


大好き！絵本

初瀬 恵美



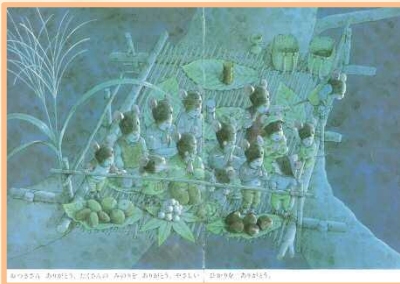
『14ひきのおつきみ』
絵・文: いわむらかずお
出版社: 童心社

9月に入り、少し風が秋の気配を感じるようになりました。夜は特に涼しく、空を見上げるととてもきれいな星空が広がっていることが多くなりました。さて今月15日は十五夜です。私が子どもの頃は十五夜お月さまをととても楽しみにしていたものでした。お団子とススキを用意して、虫の音を聞きながらお月見をするのが、年中行事の一つでした。その頃を思い出させてくれる懐かしい絵本を今月は紹介したいと思います。それは『14ひきのおつきみ』です。いわむらかずおさんの大人気絵本14ひきシリーズの一つです。

「おとうさん おかあさん おじいさん おばあさん そしてきょうだい10ひき。ほくらは みんなで14ひきかぞく。」と始まるのがこの14ひきシリーズの定番！14ひきはお月見するために大きな木の上の方にお月見台を作ります。ねずみだからスルスルと木に登れそうな気がしますが、この絵本のねずみさんたちは、人間のような暮らしをしています。だから、大きな木に登るときもまず滑車をかけて籠で登ります。さらに上へと上がるため、木の枝で、はしごを作り上へのぼります。そして空がよく見える見晴らしの良いところに、お月見台を作り、お月見をします。お月見台を作るまでと、お月見をするときの家族のほのぼのとしたりとりが、絵を通して感じられる心安らぐ一冊になっています。

この絵本の大好きなところは、昼から夕暮れ、そして夜へと移り変わっていく変化が「空気感」として絵の中に織り込まれているところです。これは、ぜひ絵本を手にとって感じていただきたいものです。

さらに全シリーズに共通して好きなのは、あたたかな質感の美しい絵の中に、家族のやりとりが沢山盛り込まれていることです。文章としての会話が書かれていなくても、絵の動きから「会話」が伝わってきたり、「感情」が伝わってくる絵本です。例えばこの下の絵をご覧ください。これは、お月見をしているときの家族の様子を描いています。



おじいさん、おばあさんはお月さまに向かって手を合わせ、目を瞑り「**おつきさん ありがとう、たくさんの みのりを ありがとう、やさしい ひかりを ありがとう**」と感謝をささげています。同じように真似をして手を合わせる子や、祈る姿を不思議そうに見つめていたりする子もします。また喜んでお月さまに手を振っている子、後ろの方では身を乗り出し、しっぽをひっぱられ止められている子もいます。（笑）こんな風に、一枚の絵なのに、まるで、動いている映像のように感じる事ができる、素敵な絵本です。

子どもたちは発見が大好き！ぜひ、お子さんと一緒に、絵本をみながら会話を楽しんだり、夜空を眺めたりしてみてください！

